

南から北から

福岡県
福岡市医報
No.654より

ラン活に思う

寺崎 乃美

わが家にもラン活の時期がやってきた。ラン活とは「ランドセルを手に入れる活動」である。お子様お孫様のためのラン活を経験済みの先生方も多いと思う。

さて、ラン活初心者の方が家にはさまざまなカタログが山積みである。百貨店から送られてくるもの、幼稚園でもらってくるもの、等々。どのランドセルも百花繚乱、豪華さに驚くものばかりである。その金額にも目を疑うが。

そもそもランドセルとは、幕末から軍隊で使用していた布製の背のうが元であり、現在の革製箱形に変わったのが明治20年。大正天皇の学習院御入学祝に伊藤博文が献上したのが始まりだそうである。オランダ語で背のうが「ランセル」であり、そこから「ランドセル」という言葉が生まれたとのことである。

小学校入学に際して何の疑問もなくランドセルを持つものと思っていたが、歴史と日本独自の文化があることに敬服し

しかし悩ましいのはその重さ。売り場で実物を手にすると、重さにへきえきする。最軽量で1キログラム弱、本革製になると1・5キログラム近くのものも。これに教科

に道行く小学生中学生を見ると、鞆の重みにふらつきながら歩いている子ども。小児科医としては子どもの姿勢への影響も気になる。重い鞆を肩で支えるので、肩こりや頭痛の原因になりそう……と、ラン活から鞆の重さ

そんな時、タイムリーな新聞記事を目にした。記事は中学生の鞆の重さについてだったが、教科書の重さがゆとり時代の1・5倍、「置き勉」の禁止などで10キログラム近い鞆を持って登下校しているそうである。確かに

順位もそのまま、一つひとつみていく。6位「怒らないから言う」。これは、葉のアドヒアランス問題である。この後に、「お薬、余っているでしょ」と続くわけである。ただ、最近私が思うのは、薬を飲んでいないことに対し、このような上から目線で対応するのはよくない、ということである。確かに、薬は必ず余っているだろう。しかしこれは当たり前なのである。例えば私が誰かに血圧の薬を処方された場合、ちゃんと毎日飲むだろうかと自問してみる。絶対無理(100%)はムリ、というところ。立場上であ

「信じられない一言」ランキング

小園 亮次

広島県
広島県医師会速報
第2327号より

ある日、車でラジオを聞いていたら、「絶対信じられない一言ランキング」をやっていた。6位「怒らないから言う」。これは、葉のアドヒアランス問題である。この後に、「お薬、余っているでしょ」と続くわけである。ただ、最近私が思うのは、薬を飲んでいないことに対し、このような上から目線で対応するのはよくない、ということである。確かに、薬は必ず余っているだろう。しかしこれは当たり前なのである。例えば私が誰かに血圧の薬を処方された場合、ちゃんと毎日飲むだろうかと自問してみる。絶対無理(100%)はムリ、というところ。立場上であ

「一言が、わが内科診療、ひいてはわが国の医療の実態と欺瞞を余すことなく映し出していることに気がついた。

順位もそのまま、一つひとつみていく。6位「怒らないから言う」。これは、葉のアドヒアランス問題である。この後に、「お薬、余っているでしょ」と続くわけである。ただ、最近私が思うのは、薬を飲んでいないことに対し、このような上から目線で対応するのはよくない、ということである。確かに、薬は必ず余っているだろう。しかしこれは当たり前なのである。例えば私が誰かに血圧の薬を処方された場合、ちゃんと毎日飲むだろうかと自問してみる。絶対無理(100%)はムリ、というところ。立場上であ

ある。1錠8万円の肝炎治療薬や何千万円もする免疫抑制剤を健康保険や公費負担で行った場合、患者負担は言わばタタミたいなもの。そんな事例が身近なものになってきた今日、そんな医療制度を今までのやり方で支えられるはずがない。タダほど怖いものはない。

1位「一生のお願い」。なぜかこれが1位だった。自分としてはあまり使わない言葉である。ただ、時に私のような者でも、患者さんから「どうして治りたい」といった「一生のお願い」を託されていると感じることがある。その願いは本物に思える。そのような願いは真摯に受け止めていきたいと思っている。

これらの品は私の大好きなオール・ヌーボーからオール・デコにかけての図柄も多くあったので、集める楽しみの一つでもあった。

そんな折、日本人でロンドン在住の骨董家さんから、英国老婦人が日本製象牙のペーパーナイフを買っている、という話が来た。早速品物を見せてもらったところ、今まで見たこともない程素晴らしい。明治維新により廃置留置が行われ、大名お抱えの工人が失職し、生きる道を輸出品へと転換せざるを得なかった頃の品である。日本伝統工芸の技が惜し気もなく施されている。

こうして、いわゆる「里帰り品」のペーパーナイフは私の下にやってきた。「お帰りの品。お疲れ様でした。安心して休んでね」と私は声を掛けていたが、コレクターは品物の一時保管人に過ぎない。また大切にしてくれる人に手渡す日が近いことを、私は自覚している。これでいいのだ。

千葉県
市川市医師会会報
第157号より

私とペーパーナイフ

藤巻 龍枝

名前からして辰年生まれと分かることが多い。家にある「赤ちゃんの名前のつけ方」の本を見ると、女子にはつけられない良い漢字の第一に「龍」が載っている。しかし私は自分の名前が大好きだ。姓名判断で有名な先生が考えて下さったこの名前が気に入っているからこそ、今までの人生、頑張ってきた部分も多々ある。

子育てが一段落した時、何か集めてみようと思いついた。名前にちなんで「龍」に関する物を、と思ったが、西洋の寓話では「龍」は悪者として退治される側であり、また中国では王の象徴なので、あまりにも品数が多すぎて困っていた。

そんな折、ふと出掛けると骨董市で金属製の「龍」のペーパーナイフが目

「一言が、わが内科診療、ひいてはわが国の医療の実態と欺瞞を余すことなく映し出していることに気がついた。

順位もそのまま、一つひとつみていく。6位「怒らないから言う」。これは、葉のアドヒアランス問題である。この後に、「お薬、余っているでしょ」と続くわけである。ただ、最近私が思うのは、薬を飲んでいないことに対し、このような上から目線で対応するのはよくない、ということである。確かに、薬は必ず余っているだろう。しかしこれは当たり前なのである。例えば私が誰かに血圧の薬を処方された場合、ちゃんと毎日飲むだろうかと自問してみる。絶対無理(100%)はムリ、というところ。立場上であ

「お帰りの品。お疲れ様でした。安心して休んでね」と私は声を掛けていたが、コレクターは品物の一時保管人に過ぎない。また大切にしてくれる人に手渡す日が近いことを、私は自覚している。これでいいのだ。

生菌整腸剤 **ラクトミン**・酪酸菌・糖化菌配合

BIO THREE

薬価基準収載